

車いすラグビー

こんにちは！豊橋市国際交流員のスティーブン・キーンです。今日はパラリンピックの競技の中で最も激しいスポーツ、車いすラグビーいわゆるデスポールを紹介していきたいと思います。



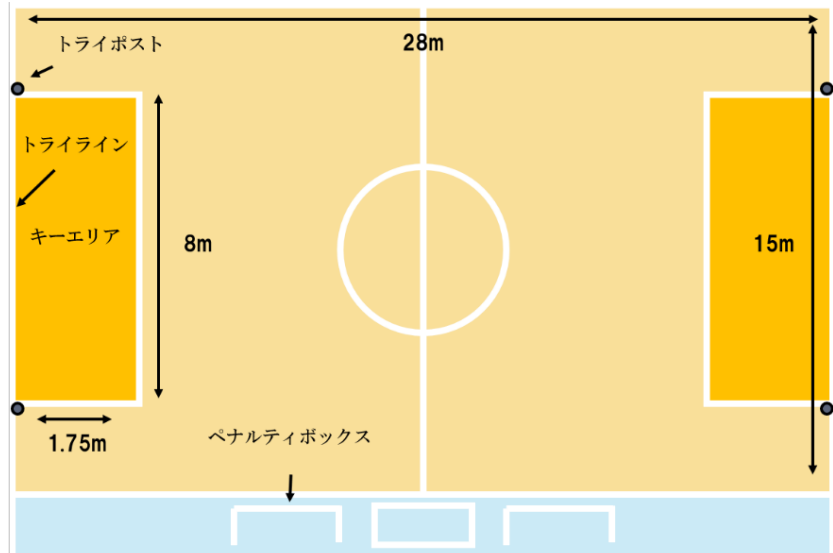
車いすラグビーは70年代カナダで車いすバスケットより幅広い障がいの種類を持つ人が参加できるスポーツとして作られました。上半身・下半身の両方に障がいを持つ選手が参加できます。だんだんパラスポーツ界で人気を集め、2000年のシドニーパラリンピックから正式種目となり、パラリンピックの中で最も人気のあるスポーツの一つになってきました。

男女混合で行われる車いすラグビーは1チーム12人で構成されています。その内、コートにいるのは各チーム4人です。選手は障がいの重度により持ち点を与えられます。例えば車いすの操作を手で出来ず、バランスを保てない選手はより低い持ち点を与えられます。最も重い障がいに最低0.5点を、0.5点刻みに最大3.5点まで7段階に分類されています。その持ち点を合計して、コート上にいる4人の選手が合わせて8点を越えてはいけません。車いすバスケットボールと同様な制度です。

試合は8分間のピリオドを4回行い、各ピリオド後に2分間の（ハーフタイムは5分間）の休憩があります。一般ラグビーと同様にボールをトライラインまで運び込むのが目的です。ボールを持った選手の車いすの前後4輪のうち2輪がトライラインを越えたら1点となります。かといってラグビーとの大きな違いに、前方のパスが認められています。攻撃チームが40秒以内にゴールをしないと、相手のボールとなります。また、10秒以内にパスかドリブルをしないこと、ボールを持

つたら 12 秒以内にセンターラインを渡らないこと、キーエリア内に 10 秒以上とどまることも反則となります。

他には相手を後ろからタッチングすること、手を相手の体



や車いすに触れることや、相手を動けないように抑えつけることなどが禁止です。反則を犯したら 1 分間または相手の得点までペナルティボックスにとどまり、交代はできません。

東京 2020 パラリンピックに 8 ヶ国が出場します。日本、オーストラリア、デンマーク、イギリス、アメリカ、ニュージーランド、カナダ、フランスが出場権を手に入れました。日本は 2016 年のリオパラリンピックで銅メダルをとり、2018 年世界選手権大会で金メダルをとったので東京では優勝候補の一つに違いありません。過去 2 回の金メダリストのアメリカも近年強くて、リオで銀メダルをとりました。リオの金メダリストのオーストラリアもいつも強いですが、世界選手権で日本に敗れましたので、東京 2020 大会がどうなるか楽しみです！皆様ぜひパラリンピックの代表的なスポーツの一つ、車いすラグビーを観ましょう！